

2024年6月14日

通貨ニュース

台湾:6月金融政策会合～利上げは見送りも預金準備率を引き上げ

台湾中央銀行(CBC)は13日、金融政策会合を開催し、政策金利(ディスカウントレート)を据え置き、2.00%とした(図表1)。CBCは前回3月会合で4会合ぶりに利上げを実施していた。また、本会合ではインフレ圧力の強まりを受け、預金準備率を+25bp引き上げることを決定。なお、ブルームバーグの事前予想では現状維持が優勢だった。

声明文では、世界経済は緩やかに成長を続ける一方、インフレは段階的ながら減速基調にあると総括。リスク要因としては、欧米中銀の金融政策動向、中国経済の持ち直しのスピード、地政学リスクの高まりに伴う世界の供給網再編を指摘したが、内容は前回会合を概ね踏襲したものであった。国内経済については、AI関連産業や先端部門における世界的な半導体需要の持ち直しが台湾の輸出にとって大きな追い風となっている点に言及(図表2)。また、24年1~3月期の実質GDP成長率は前年同期比+6.6%と大きく持ち直した(図表3)。引き続き外需部門が成長をけん引しており、GDPへの寄与度は+5.3%ポイントを記録した。内需もコロナ禍におけるリベンジ需要は一巡したが底堅さを保っている。こうした状況を受け、先行きの見通しは好転しており、24年については前年比+3.8%と前回会合から+0.5%ポイント上方修正された。

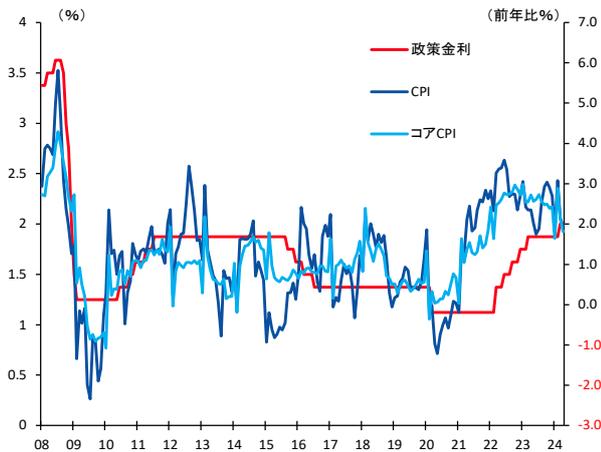
物価動向について、24年に入りインフレ鈍化のペースがやや遅くなっている。直近の5月消費者物価指数(CPI)は前年比+2.2%、エネルギー・野菜・果物を除いたコアCPIは同+1.8%を記録し(図表4)、+2%に収束しつつあるとの見方も出来る。しかし、CBCは食料品、住宅、サービス価格など複数の項目が上昇基調にあることに言及。特に住宅価格については、直近3年にかけて上昇ペースが速まっており(図表5)、今般預金準備率を引き上げることで銀行融資を抑制し、住宅市況の加熱を防いでいく方針を示した。24年の見通しについては、電力価格改定の影響に伴う物価上昇圧力を加味しながらも、総合CPIを同+2.1%、コアベースを同+2.0%とし、前年よりもインフレは抑制されるとした。

今回は預金準備率の引き上げに留めたが、CBCは今後の政策転換は段階的かつ小刻みになる可能性を示唆した。前日のFOMCでの決定を受けて為替の面でも早期の利下げに踏み込みにくくなっていることも考えられる。前回3月会合で楊総裁がこれ以上の利上げはないと述べた以上、世界経済やFRBの動向に変化がない限り、次の一手は緩和方向の決定となると考えたい。

会合後はFOMCでの政策金利見直し引き上げが材料視されて、ややTWD安方向の反応となった。先行きについては、貿易黒字の拡大に伴いTWDの強みである実需の買いが相場を下支えすると思われるが、近年の動きをみてもTWDはCNYの方向感に追従する傾向が強く、景気不安もありCNYは年初来安値圏を推移している点は割引く必要がある(図表6)。FRBの利下げ後ろ倒しも濃厚となった中で、TWDの持ち直しは年後半以降になると予想される。

金融市場部
マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

図表 1: 政策金利とインフレ率



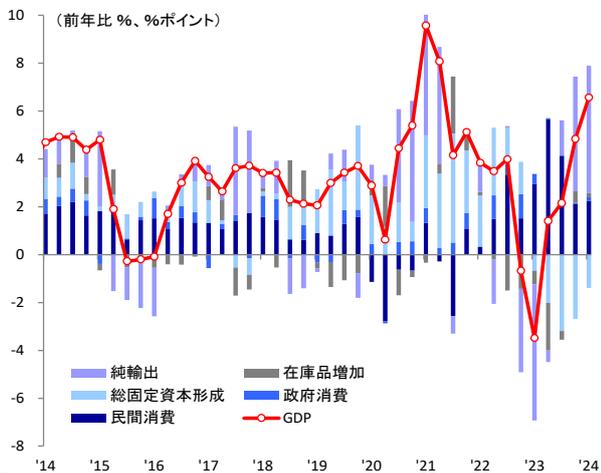
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: 貿易収支の動向



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行
※後方3か月移動平均を用いて算出

図表 3: 実質 GDP 成長率の推移 (前年比%, %ポイント)



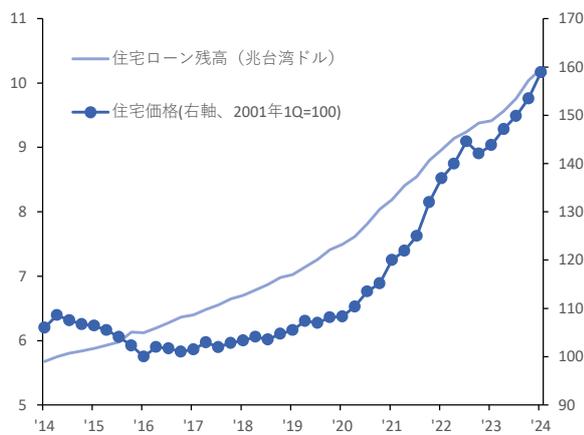
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 4: 消費者物価指数の推移



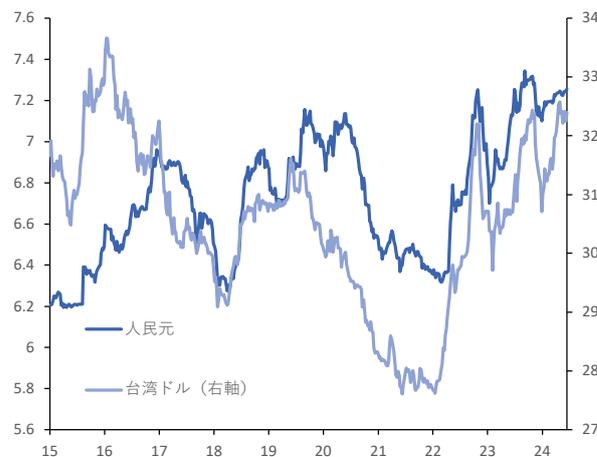
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 5: 住宅価格と住宅ローン残高



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 6: TWDと人民元の動向 (対ドル)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。